令和7年度 同愛高齢者支援総合センター・高齢者みまもり相談室 事業計画

第9期日常生活圏域別地域包括ケア計画 目指すべき将来像

—目指すべき将来像—

人と地域がやさしく支え合うまち

～ ゆるやかなむすびつきのあるまち、自らができること ～

長いコロナとの戦いでの影響やマンションの増加など時代の流れのいたずらによって、つながりが希薄化しています。その一方で、町会や老人クラブ、子供会等が根強く活動し、「まだまだこのまちも捨てたもんじゃない！」

昔から住む人、新たに住み始めた人、それぞれの住民がゆるやかにむすびつき、やさしく支え合える“心強い関係性”を感じられ、「ここに住んでいて良かった」「住みたいまち、住み続けたいまち」と住民が自慢できるまちを目指します。

人口	高齢者人口	高齢化率	後期高齢者人口	高齢者人口に対する後期高齢者人口
45,354 人	7,931 人	17.5%	4,461 人	56.2%

令和7年2月1日現在

<全センター・相談室共通業務>

1 総合相談支援

7年度の取組の視点	重層的な課題に対応するため、みまもり相談室と高齢者支援総合センターが一体的に対応できるよう、専門職としての自己研鑽を継続させながら、関係機関との連携体制を強化していく。		
結果	新規相談件数 ○件（前年度 ○件）	継続相談件数 ○件（前年度 ○件）	

2 権利擁護

7年度の取組の視点	支援者間の役割分担や協働を意識した取り組みを行うことで、関係機関とのネットワーク機能の充実を図る。高齢者の権利侵害の予防、防止につながるよう、制度等を身近に感じていただけるような啓発を地域住民向けに行う。 ○介護事業所向けの虐待防止、意思決定支援等の勉強会（年6回） ○成年後見と周辺制度、相続や遺言等の地域向け講座（年2回）		
結果	虐待防止ネットワーク（研修、講座等） ○件（前年度 ○件）	権利擁護相談（虐待相談含む）件数 ○件（前年度 ○件）	

3 包括的・継続的ケアマネジメント支援

7年度の取組の視点	同愛地区ケアマネ管理者連絡会を開催し、地域のケアマネジャーが抱える課題を抽出するとともに、課題解決に向けた研修会や勉強会を立案していく。 専門職間の連携がより円滑となる仕組みを充実させ、高齢者が自宅での療養の実現が難しいと感じることがなく、住み慣れた地域での生活が続けられるよう、支援体制を強化させる。		
結果	ケアマネジャー向け研修 ○回（前年度 ○回）	事例検討会 ○件（前年度 ○件）	

4 一般介護予防事業

7年度の取組の視点	「知らなきゃ損！損！出前講座メニュー表」を活用してもらえよう、町会、老人クラブ、自主グループ、サロン等に働きかけを行い、チーム同愛で講座を開催する。 「同愛げんき応援通信」を発行し、地域での体力測定会の実施、ウォーキングマップの活用等を周知していく。	
結果	住民主体の通いの場の数 ○件（前年度 ○件）	

5 介護予防支援・介護予防ケアマネジメント

7年度の取組の視点	「今できることを止めない」支援を基本に、「本人らしくもっと活動的になる」支援を加え、地域住民に介護予防の普及啓発を行い、自立した生活を送る視点を磨くマネジメントができるよう地域の専門職とともに研鑽する。	
結果	プラン件数（自己作成）○件（前年度○件）	プラン件数（委託）○件（前年度○件）

6 認知症支援

7年度の取組の視点	認知症を身近なこととして考えてもらうよう、様々な世代、職種、自主グループをターゲットとし、チームオレンジの輪を広げ、地域住民と共に当事者やその家族を見守ることができる地域作りを目指す。 ○認知症家族会：ローズティーの会（年6回） ○南部オレンジカフェ（年12回）	
結果	認知症サポーター数 ○人（前年度 ○人）	家族介護者教室 ○回（前年度 ○回）

7 地域ケア会議

7年度の取組の視点	自立支援・重度化防止に向けた地域ケア個別会議を開催し、個別課題や地域課題を把握する。 第9期の計画を遂行できるよう、地域住民、多職種、関係機関等と情報共有や課題解決に向けた地域ケア推進会議を開催する。 ○個別ケア会議（年6回） ○地域ケア推進会議（年10回《分科会含》）	
結果	地域ケア個別会議 ○回（前年度 ○回）	地域ケア推進会議 ○回（前年度 ○回）

8 生活支援体制整備事業

7年度の取組の視点	交流、集いの場の後方支援を行うと共に、地域に眠っている通いの場としての「場所」や「担い手」の確保を行っていく。 令和6年度に作成した“活動の場一覧”を活用し、住民に地域の社会資源の周知を行い、町会活動や自主グループに興味関心を持ってもらい、担い手や活動者として参加を促していく。	
結果	交流・通いの場 件（前年度 ○件）	

9 見守りネットワーク事業

7年度の 取組の視点	<p>孤立傾向や支援を必要とする高齢者を早期に発見し、必要な支援につなげられるよう、実態把握や見守りネットワーク構築を進める。</p> <p>○実態把握（600件）</p> <p>○ネットワークの拡充：「みまもりだより」をより地域に広めることができるよう未設置の商店、医療機関等に出向き3か所増を目指す。</p> <p>○マンション管理会社、大家等との連携：東京都監察医務院の孤立死に関する情報から早期発見、早期対応につなげられるようマンション管理会社、大家等に働きかけを行う。</p>	
結果	実態把握 ○件（前年度 ○件）	安否確認 ○件（前年度 ○件）

取組名 みんなでつながる 憩いの場		目指すべき姿：必要に応じて生活支援サービスなどを利用しつつ社会参加して支え合っている
背景となる現況・課題	<p>8期の取り組みの中で、町会や老人クラブ、自主グループ等に出向き、講座の依頼を受けたり、各会が自主的に体力測定会を開催できるように支援をしてきた。しかし、コロナの渦により地域の活動が停滞してしまった。そのような状況でも、ニーズ調査の結果では、地域づくりやボランティアに参加したい、参加しているという方が34.4%と高く、地域に関心がある方がまだまだ多くいる。また、地域ケア会議のなかで、コロナ禍以降、活動に参加していた人を見かけなくなったという心配や、地域活動に参加していない人や転居してきた人の把握ができていない、どうやって地域とつながればよいのかわからないのではないかと、という声があがった。</p> <p>スマートフォンの普及により情報収集方法がインターネット中心になり、情報を得ることが容易になった一方で、気軽に立ち話をしづらくなっているという声もある。</p> <p>また、集いの場はあっても都合が合わない、集いの場の活動を好まない人も多く、地域とつながりがいい人の中で困りごとを抱える人をどのように見つけるか課題となっている。</p>	
計画策定段階の 前年度の事業実績	<p>「立ち寄りたい運営委員会」立ち上げに向けた意見交換会を2回実施（社会福祉協議会、OT、PT）。</p> <p>運営方針を決定するまでには至らなかったが、次年度の方向性を共有できた。</p>	
第9期計画における 目的	<p>高齢者が、地域の情報を得られ興味関心の幅を広げることができるとともに、気軽に交流でき希望に合わせてつながりを得ることができる。</p>	
令和7年度の 取組の指標と 方向性	目標	「憩いの場」（気軽に交流できる場）を作ることを目的、作り上げるにあたっての課題を参加者で共有することができる。
	投入資源	<p>人材：町会、老人クラブ、民生委員、小地域福祉活動拠点運営メンバーのみなさん、社会福祉協議会、介護事業者、医療機関、高齢者支援総合センター、高齢者みまもり相談室</p> <p>場所：本所地域プラザ等</p> <p>準備：ペン、付箋、ホワイトボード、地域の地図他</p> <p>費用：場所代他</p>
	活動計画	<p>○高齢者が集まる場所マップの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「立ち寄りたい運営委員会」で高齢者が集まる場所をマップに落とし込み可視化する ・可視化したマップから“活用できる場所”を絞り込む ・“活用できる場所”を活用するにあたっての課題を整理する

	アウトプット指標	○参加機関数、参加者数 ○委員会開催回数
	アウトカム指標	○参加者アンケート結果
実施結果	活動の実績 (アウトプット)	
	成果（成果指標を用いた目標の達成状況）	
備考		

取組名 みんなでつろう地域サービス		目指すべき姿：多様な介護サービスを必要に応じて利用している
背景となる現況・課題	<p>広報誌やイベント等を通じ、地域の介護保険事業所を含めた介護に関する相談窓口の周知を様々な方法で行ってきているが、浸透していない状況があり、より地域と介護関係者が連携を図る必要があると感じている。</p> <p>ニーズ調査の結果で、介護が必要になった際の居場所として「自宅」を希望している人が54.1%に上る一方、介護者の中で、「介護のために労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）しながら働いている」が39.1%いる反面、今後「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのは、かなり難しい」を合わせた“続けていくのは難しい”と感じている割合は23.4%となっており、本人はもとより、その家族へも介護サービスの周知が重要になってくることがわかる。</p>	
計画策定段階の前年度の事業実績	「やっちゃえ介護！運営委員会」でふれあい地域交流会 わがまち発見！ウォークラリーを開催した（参加者25名、参加事業所20か所、36名、ボランティア4名）。	
第9期計画における目的	「介護」についてのイメージや意識を改革し、介護サービスを身近に感じて、相談や利用をしやすくする。	地域の事業所の持つ専門性の向上と事業所間の連携を強化し、ケアチームの力が地域住民に還元され、介護が必要になった時に、安心、信頼して利用できるようになる。
令和7年度の取組の指標と方向性	目標	○地域のみなさんに介護を身近に感じていただけるよう、「ふれあい地域交流会 ～介護事業所祭り（仮）～」を開催し、地域の介護事業所の持つ連携力を地域に還元する。
	投入資源	<p>人材：介護事業所、社会福祉協議会、民生委員、同愛サポーター、同愛高齢者支援総合センター、高齢者みまもり相談室他</p> <p>場所：本所地域プラザ、リバーサイドホール等（場所は要検討）</p> <p>準備：ペン、養生テープ、模造紙、案内板他</p> <p>費用：場所代他</p>
	活動計画	○「やっちゃえ介護！運営委員会」を開催しイベント内容を検討する。

	アウトプット 指標	○委員会開催数、参加事業所数、従事者数 ○交流会来場者数
	アウトカム 指標	○従事者アンケート結果 ○来場者アンケート結果
実施結果	活動の実績 (アウトプット)	
	成果（成果 指標を用いた 目標の達成 状況）	
備考		

取組名 わかりやすく説明して！介護や医療のこと		目指すべき姿：切れ目のない円滑な医療・介護連携により必要な在宅療養を受けている
背景となる現況・課題	<p>活動を通じ、以前に比べ「介護と医療が連携する」という意識が高まっている一方で、コロナ禍期の連携が停滞してしまっただけでなく、地域ケア会議において特に入退院時の地域と医療機関の連携が難しい面があるという意見があった。また、病気に関して不安を感じる高齢者は複数の医療機関を受診し、情報の混乱が生じてしまうことや、ひとり暮らし世帯、高齢者のみの世帯が増えていることで通院、診察、薬の受け取り等に困難な様子が伺える。かかりつけ医の無い高齢者もあり、介護が必要になった際の医療の確保に困難が生じている。</p> <p>医療や介護サービスを利用し始めると、地域とつながりが途切れてしまうという声もあがっているが、個人情報のために医療、介護の関係機関側も地域の知り合い等に本人の状況を伝えることが難しい状態でもある。</p>	
計画策定段階の前年度の事業実績	<p>「同愛地区 介護と医療の連携会議」を開催（歯科医 4 名、薬剤師 3 名、医師 3 名、民生委員代表 1 名、PT 1 名、OT 1 名）。</p> <p>同愛地域の医療機関、介護事業所の紹介を含むマップ作成をすることとなった。</p>	
第 9 期計画における目的	<p>地域の高齢者が自ら望む生活を描くことができ、初めてサービスを受ける際も不安なく、入院や介護が必要な状況になっても地域に支えられながら望む生活ができる。</p>	
令和 7 年度の取組の指標と方向性	目標	「同愛地区限定 医療と介護のマップ」（地域の医療機関、介護事業所の情報が盛り込まれた冊子）を作成し、地域で活用されている。
	投入資源	<p>人材：医療機関（医師、歯科医師、薬剤師、歯科衛生士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、MSW、看護師等）介護事業者、民生委員、高齢者支援総合センター、高齢者みまもり相談室他</p> <p>場所：本所地域プラザ等</p> <p>準備：カタログケース他</p> <p>費用：場所代、印刷代</p>
	活動計画	<p>○「同愛地区限定 医療と介護のマップ」を作成し、地域に配布する。</p> <p>○介護と医療の連携会議を開催し、配布後の検証を行う。</p>
	アウトプット 指標	<p>○冊子掲載事業所数</p> <p>○冊子の設置場所数、配布数</p>

	アウトカム 指標	○アンケート結果 ○医療と介護の連携会議の新たな参加事業所数 ○新規の利用者（患者）数
実施結果	活動の実績 (アウトプット)	
	成果（成果 指標を用いた 目標の達成 状況）	
備考		

取組名 高齢者の住まいの情報 あなたのもとへ		目指すべき姿：身体状況の変化と本人の希望に応じて住まい方を選択している
背景となる現況・課題	高齢者施設等の住み替えの検討や現住居の環境から今後の生活に不安を覚えるという声が地域からあがっているため、住まいの情報（自宅内の環境整備と住まいの選択肢）を講座や紙面を活用しながら地域に向けて発信しているが、住まいの多様化もあり、高齢者向け住宅や高齢者施設の種類や内容を十分に把握できていない場合も多く、それを知る機会がまだ少ないことも課題となっている。また、住まいに関する情報が高齢者家族に届いておらず、住み替えの不安をどこに、どのタイミングで相談してよいのかわからないといった課題もある。	
計画策定段階の 前年度の事業実績	<p>住まい環境講座「これで安心 知って 転ぶ原因」12/6 23名参加 自宅の危険となる箇所や対策の周知を行えたことは、適切かつ有効な情報発信であったが、今後は広く周知する方法や環境を継続して整備できる働きかけの検討が必要。</p> <p>住まい選び講座「知って 高齢者施設のいろいろ 自分にあつた施設の選び方」 9/24 初級編 9名参加 1/28 応用編：26名参加 設備が整った施設を優先事項として検討している方が多いことがわかった。今後は、その内容を加味して情報を幅広く届ける方法について検討していく。また、相談先の認知度が低いため、相談先の周知方法を検討していく。</p>	
第9期計画における 目的	自宅内での事故の予防やバリアフリー化といった住環境の情報が適切に行き届くことにより、快適で安全な住環境が整えられ住み慣れた自宅で安心して住み続けることができる。	住まいの多様化により住まいに不安を感じている高齢者が、高齢者向け住宅や施設の情報を収集でき自分にあつた住まいの選択ができる。
令和7年度の取組の 指標と方向性	目標	講座等で情報提供を行うことで地域の高齢者に快適で安全な住まい環境が整備される。
	投入資源	<p>人材：高齢者支援総合センター職員、高齢者みまもり相談室職員、消防署、リハビリ専門職、福祉用具事業者等</p> <p>場所：本所地域プラザ</p> <p>費用：場所代、配布資料の印刷費</p>

	活動計画	リハビリ専門職や福祉用具事業者、消防等と連携しながら出前講座や勉強会を開催する。	住まいの相談窓口と協働した住まいに関する講座や勉強会を開催する。
	アウトプット指標	住環境に関する講座の回数と参加人数（男女、年代含む）	住まいの選択に関する講座の回数と参加人数（男女、年代含む）
	アウトカム指標	自宅の危険か所に関する認識と自宅内での事故有無、対策等のアンケート	情報収集の程度や相談先の認知度等に関するアンケート
実施結果	活動の実績（アウトプット）		
	成果（成果指標を用いた目標の達成状況）		
備考			

取組名 認知しよう、認知症～忘れても地域で支える つながりの和～		目指すべき姿：地域における認知症に対する理解が進み、認知症の人が安心してその人らしく暮らしている	
背景となる現況・課題		<p>ニーズ調査で、認知症の症状があっても住みやすい地域であるかの問いに「そう思う」「ややそう思う」と回答した人が55.1%と区内平均を上回っているが、近隣との関係性が強い地域であるが故に、認知症の症状がある親、知り合い、近隣住民に「どう声かけすればよいか」「どう付き合い合えばよいか」と接し方に悩んでいる住民が多い。</p> <p>講座や体力測定会等を通じ、健康寿命について関心を持っていただけるように活動してきた。強いて言えば、中年期から、認知症予防や知識、早期発見、治療の大切さを広める必要がある。</p>	
計画策定段階の前年度の事業実績		<p>○認知症普及啓発講座 実施回数 5 回（参加者：区民在住在勤者、事業所関係者等）</p> <p>○認知症サポーター養成講座 実施回数 14 回（参加者：区内在住在勤者、小学生、金融機関）</p> <p>○みまもりだより 1 回（認知症普及啓発）</p> <p>○地域ケア会議 3 回（参加者：民生委員、社会福祉協議会、地リハ、同愛HP）実施。9 期計画遂行にあたり、地域ケア会議を開催。同愛地区認知症ケアパス作成に向け内容について検討。また、次年度事業計画として、広い範囲の地域の人声（まちの声）を集めること、生産者世代に向けて認知症普及啓発事業について検討した。</p>	
第 9 期計画における目的		認知症を知る機会を通じ、認知症を自分事、地域事として考えることができ、誰もが認知症になっても安心して地域で暮らし続けることができるようになる。	
令和 7 年度の取組の指標と方向性	目標	自分事・地域事として認知症をとらえ、情報共有を行い、令和 6 年度に収集したこの地域に必要なことを詳らかにし、さらに広い範囲の地域の人声（まちの声）を集め、次年度の方向性を決めることができる	
	投入資源	<p>人材：町会、老人クラブ、民生委員、ボランティア、社会福祉協議会、地元企業、介護事業者、医療機関、高齢者支援総合センター、高齢者みまもり相談室</p> <p>場所：本所地域プラザ、町会会館等</p> <p>費用：場所代、配布資料の印刷費等</p>	

	活動計画	○アルツハイマー月間（9月）にSNSで配信する ○労働年齢層も参加可能な時間帯に認知症講座を開催する ○認知症をテーマにした地域ケア会議を開催する（「まちの声」を拾う）	
	アウトプット 指標	○SNS 配信回数 ○講座の開催回数、参加者数 ○会議の開催回数、参加者数	
	アウトカム 指標	○SNS 配信記事に対する反応：「いいね」の数 ○アンケートの評価・感想	
実施結果	活動の実績 (アウトプット)		
	成果（成果 指標を用いた 目標の達成 状況）		
	備考		